



音楽の普及発展

つゆ 露 木 き 次 男

(85歳)

住所

由利郡西目町

昭和9年、秋田県立本荘高等女学校（現由利高校）に音楽科教諭として赴任以来、県立本荘中学校（現本荘高校）教諭、秋田大学講師、助教授、聖霊女子短期大学教授をつとめ、終始一貫、音楽教育の向上に尽力した。

この間、昭和14年にはイタリア音楽祭に「牛追い唄」、「笛吹き女」、「猫」等多くの作曲、作品を出展し、ワインガルトナー賞を受賞、また新聞の文化欄への寄稿も数多くするなど、音楽文化の発展に貢献している。



歌道の普及発展

さ とう
佐 藤

はじめ
一

(80歳)

住所

河辺郡河辺町

昭和初期から作歌活動に入り、歌誌「沃野」（東京）同人を経て昭和25年「寒流」の創刊に参画、以来同人として今日まで旺盛な創作活動を続けている。

秋田県歌人懇話会顧問（昭和32年～現在）、「さきがけ歌壇」選者（昭和44年～現在）、歌集「峡の声」昭和43年刊行し、このように長年にわたり秋田県歌人の先頭に立ち、土俗性に満ちた題材と人間味豊かな作風を展開し、また県内各地の歌会の指導にあたり、今日の県歌壇の隆盛に多大の貢献をしている。



鍛金業の振興発展

せきや しろう
関 谷 四 郎

(80歳)

住所
東京都

秋田市外旭川の出身で、幼少の頃から工芸を志し、古い伝統のある金属工芸の中の鍛金分野において、常に時代に先駆け、独自の作風を創り上げてきた。特に、銅、銅合金、鉄、銀等の板金をろう付けして成型する至難な「接合せ」の技法に優れ、これに鉄錆の着色や金濟を巧みに併用し、作品に一層の新しさを盛り込むことに成功した。

その技術の堅実さと新鮮で現代的な作風が高く評価され、日本伝統工芸展等で数々の賞を受けた。昭和52年には鍛金工芸界唯一の重要無形文化財（人間国宝）保持者として認定された。

また自分の工房を広く解放し、毎年東京と秋田において、研究会、作品展を開催するなど、若い工芸家の育成に大きく貢献している。



書道の普及発展

こゑ たま たけし
児 玉 武

(78歳)

住所
秋田市

昭和36年に大無書院を創設、続いて昭和38年に秋田市書道会の創設に参画し会長となり、本県の書道普及と指導者として大きく活躍した。

昭和39年には、現在の秋田県書道連盟を創立し副会長として連盟の発展に尽力し、昭和61年には秋田書檀院連盟会長に就任し、その実力と人柄が評価され、中央書檀院の理事、審査員として長年にわたり、献身的な活動をされた功績は大きい。

また、日華書道文化交流協会常任理事として中国を訪問し、書道をとおり日中親善をふかめた。



地域経済の振興発展

しお 塩 た 田 ゆう 雄 じ 次

(74歳)

住所

秋田市

昭和43年以来、秋田商工会議所の監事、常議員、理財部会長、財務委員長を歴任し同会議所の運営に参画するとともに、昭和48年には(社)秋田県銀行協会副会長、(社)全国地方銀行協会評議員・理事、秋田県信用保証協会理事をつとめ、地方銀行の発展、中小企業金融の円滑化と地域経済及び産業の振興に尽くしている。

さらには、(社)経済団体連合会評議員、県国土利用計画地方審議会委員、県教育委員会委員長等を就任し、産業経済、地方行政、教育等の各分野にわたり幅広く活躍している。



生物学の研究と発展

か とう きみ お
加 藤 君 雄

(72歳)

住所

秋田市

生物学研究の第一人者として、菌類の分類学的研究、水性植物群落の生態学的研究や、秋田県の文化財に関する学術調査を行い、秋田県の生物学の発展に多大の貢献をし、昭和56年秋田大学を定年退官後、秋田大学名誉教授、秋田経済法科大学教授となり、現在に至っている。

その間、数多くのすぐれた教え子を教育界に送り出すと共に、多くの著書、論文等を通じ、さらに秋田生物学会会長、秋田県文化財審議会委員、同自然環境保全審議会会長を長期にわたり勤めるなど、県民に対し積極的な啓蒙活動を行い、秋田県の教育文化の振興に貢献している。



日本舞踊と邦楽の 普及発展

やま だ さち こ
山 田 幸 子

(65歳)

住所

秋田市

幼少から日本舞踊に精進し、昭和16年藤蔭流名取、昭和30年地唄神崎流名取、昭和32年には長唄杵屋流名取となる。

昭和53年には神崎流二代目家元・神崎ひで恵、藤蔭流正派家元・藤蔭季代恵を襲名し、後継者の育成と邦舞・邦楽の発展に尽力している。

特に、昭和36年には日本舞踊の県内各流派を統合する日本舞踊協会秋田県支部の結成に参画し、昭和52年から支部長として団体運営はもとより、中央邦楽界との密接な交流を図り、本県芸術文化の振興に大きく貢献している。



地域文化の振興発展

じょうもんのかい
城門の会

(代表者 佐々木孝一郎)

住所

由利郡岩城町

同会は、史跡文化財の保存、郷土史研究・学習会の開催、文化講演会の開催、会誌の発行、町政への提言等の文化コミュニティ活動の外、クリーンアップ作戦、高城山の散策道整備の奉仕活動を昭和46年から行う等、町最大の社会教育団体でもあり、また昭和48年亀田地区が、県のモデルコミュニティ地区の指定を受ける際にも、同会は大きな役割をはたしている。

更に昭和61年、福島県いわき市の市民団体と、歴史、文化、史跡等の研究のための相互往来を通じ、官民一体の交流に発展させている。

この様な同会の活動の影響力は、町の枠を超えた広域にも及び、地域の教育、産業、経済等の各般にわたり先導的役割を果たしており、その功績は高く評価されている。